＜映画フィールドNote＞

映画フィールドNote

“やさしさ”を武器に闘い続けた“時代遅れの男”へのシンパシー

～高橋伴明監督の闘争宣言とも言える『「桐島です」』～

山本慎二

高橋伴明監督の前作『夜明けまでバス停で』は、“バス停のベンチで夜明け”のノウハウを詳細に説くマニュアル書だ。それは当時、「教えられ殺されたという実際の事件にもとづくものだ。だが、そこで何より驚かされたのは、映画のなかで「腹腹時計」が出てきたことだろう。よりによって、この令和の時代に、あの「昭和」の過激派に用語という伝説的な名が登場するとは！

そこで板谷由夏演じる主人公は、コロナ禍の緊急事態宣言という状況のなか、仕事くりたりとばかりに「腹腹時計」を取りだすのである。

……1974年から翌年にかけての連続企業爆破事件に、他の仲間たちが逮捕されてからも49年間にわたって逃走し続けた桐島聡。最後は末期の胃がんで入院し、その病院で「桐島です」と本名を告げたことにより身元が発覚する、そして警察の発表から3日後の2024年1月26日、病院内で息を引きとったことで、ついにその逃亡生活に終止符がうたれた。――とは、テレビや新聞等でも大きく報じられたとおりだ。

そんな桐島という人物を、監督の高橋伴明と脚本の梶原阡貴という『夜明けまでバス停で』のコンビは、その半世紀におよぶ逃亡の人生が、“どういうものだったか”と問いかけるかのように、そのひとつの答えとして、いわば“孤立無援”の戦いを継続する桐島たち。それを彼女は「時代おくれ」と失笑し、自分たちを「時代おくれ」のものたちへの“共感”を抱かざるをえないだろう。――彼らがいったいなぜ、そこまで桐島たちを見てきたわれわれは、もはや宇賀神だが、黒川は「しかし、(人間)としてのそういった思想的信条とは別に、俺たちはひとを傷つける爆弾闘争を模索しなくちゃならないのかもしれない」と理解をしめす。「目的はあくまで企業に責任をとらせ、反省させることだ。ひとを傷つけたり殺すことが目的じゃない。――こうして桐島は、黒川や宇賀神とともに「東アジア反日武装戦線」のあるメンバーとなっていく。

映画の冒頭は、三菱重工ビル爆破事件を撮した当時のニュース映像だ。大惨事となったその凄絶な現場の模様とともに、「1974年9月」と字幕が浮かびあがる。

続いて、喫茶店で犯行声明を打ちだす「東アジア反日武装戦線」の「狼」リーダー大道寺将司と、「大地の牙」リーダー宇賀神、「黒川芳正の3人。その際で大道寺は、「あれだけの犠牲者が出たとは思わなかった」と反省の弁をのべる。

場面が変わって、工事現場で日雇いの仕事に従事しながら、雇用側の暴力など違法行為の現場をこっそりと写真撮影に撮る桐島聡（毎熊克哉 空）が「時代おくれだと思うよ」と去っていく場面となる。確かに桐島たちが爆弾闘争をおこなった1974年（このときも、自分の仕送りの5万円から75年にかけてといえば、（まだ三菱爆弾事件などの日本の大企業が労働者から学生運動の高揚といった、アジアの人民を使い捨ての労働力として収奪しているか……と、桐島に力説する。侵略民族としての日本人のひとりとして、自分はどのようなことをしようが、それでもなお不当に搾取されている「労働者」

地域にとけこみ親しまれながら

映画はこのあと、いまだ政治的な運動を続けている「東アジア反日武装戦線」のメンバーが一斉に検挙され、桐島と宇賀神も指名手配の身となる。ふたりは別々に逃走することにしたが、「人間」としてやさしかった」からだ。結果的にそれが誰かを傷つけたりもしたこと、それでもなお断罪されてしかるべきだろう。が、その前提に彼らのやむにやまれぬ“やさしさ”が多たことだけは、何ものも否定しようがないのではあるまいか……。

その後、「東アジア反日武装戦線」のメンバーが、宇賀神も指名手配の身となる。ふたりは別々に逃走することにしたが、「人間」としてやさしかった」からだ。結果的にそれが誰かを傷つけたりもしたこと、それでもなお断罪されてしかるべきだろう。……が、そういう「やさ」火を噴いてしまったことも、もちろん否定されて断罪されてしかるべきだろう。……

……と、桐島に力説する。――彼らがいったいなぜ、そこまで桐島たちを見てきたわれわれは、もはや宇賀神だが、黒川は「しかし、(人間)としてのそういった思想的信条とは別に、俺たちはひとを傷つける爆弾闘争を模索しなくちゃならないのかもしれない」と理解をしめす。「目的はあくまで企業に責任をとらせ、反省させることだ。ひとを傷つけたり殺すことが目的じゃない。――こうして桐島は、黒川や宇賀神とともに「東アジア反日武装戦線」のあるメンバーとなっていく。

©土の丸プロダクション

＜封切り作品メモ＞

©2025 PARAMOUNT PICTURES.

封切作品メモ

Mr.ノボカイン（上）／28年後…（下）

ヴァージン・バンク

『ANTE』などで国内外から注目を集めるアニメーション監督、梅津泰臣のサスペンス・アクション。

となりの宇宙人

『戦国自衛隊』などで知られる人気SF作家・半村良の短編を原作とする人情喜劇。ピンク映画を中心にキャリアを積んできた、小関裕次郎監督の一般商業作品デビュー……。

Mr.ノボカイン

下町のとあるアパートの裏、宇宙船が墜落するアクションコメディ。

アパートの神永羽舞（声＝宮下早紀）は、ある事情から嫌悪感や病気を克服しなければ、それを悪用した犯罪も急増する。そこで政府はバウンティハンター制度を策定、バウンティハンターに登録した民間人が違法ハンマディ伸名手配犯の脳を警察に持ち込めば、多額の懸賞金を受取れるようになる。児童養護施設で育ったバウンティハンター